



ライデン国立古代博物館所蔵

古代エジプト展

EGYPT, LAND OF DISCOVERIES
from The National Museum of Antiquities in Leiden, The Netherlands

企画書

展覧会概要

世界で最も古い国立博物館の一つであるオランダのライデン国立古代博物館は、古代エジプト、ギリシャ、ローマなど総数約20万点(2018年末現在)のコレクションを所蔵しています。中でもエジプト・コレクションは約2万5千点にのぼり、ヨーロッパでは大英博物館、ルーヴル美術館、ベルリン・エジプト博物館、トリノ・エジプト博物館と合わせて5大エジプト・コレクションに数えられる世界有数の量と質を誇ります。

この度、同館所蔵の古代エジプト・コレクションから、人や動物のミイラ約10体や10数点の棺などを含む、厳選された約250点の借用が実現しました。本展では、ヨーロッパにおける古代エジプトへの関心の高まりがどのようにして現地での調査へ連なっていったかを示し、発見された遺物から古代エジプト人の生活や社会、死生観といったさまざまな文明の側面を紹介します。さらに、最新の科学技術を通して医学的な知識やミイラ作りの過程、色やかたちに対する人びとの美意識といったこれまでに知られていなかった面を解き明かす、従来のエジプト展とは一線を画した、新たな展覧会となります。

みどころ

**① 本展出品のミイラの
CTスキャンの研究成果を世界初公開！**

**② 圧巻の立体展示！
10数点の棺が一挙集合**

**③ ヨーロッパ5大エジプト・コレクションのひとつ、
ライデン国立古代博物館から約250点が来日！**

みどころ①

本展出品のミイラのCTスキャンの研究成果を世界初公開！

ライデン国立古代博物館には、多くの人間や動物のミイラが所蔵されています。

世界の美術館・博物館の中には、ミイラに巻かれた布を研究目的でほどいてしまう事例もありましたが、同館の初代館長 J.C. ルーヴェンスは将来的な技術の進歩を予見し、ミイラを傷つけることなく保存することを決めました。そのため同館が所蔵するミイラ・コレクションは、その大半が完全に布で包まれた非常に良好な状態で保存されています。

同館では1950年代から1960年代にX線による研究が、そして1990年代には、所蔵するミイラ・コレクションに世界初のCTスキャンが実施されました。近年では、最先端の技術を用いたCTスキャンによってさらに詳細な研究が行われています。今回、本展に出品されるミイラの中から人間のミイラ3体と動物のミイラ1体を選び、本展のために最新のCTスキャン技術で調査を行い、その成果を世界初公開します。



2019年7月11日にアムステルダム・メディカル・センターで行なわれたミイラのCTスキャンの様子



女性のミイラ

第3中間期
長さ165.5cm、幅36.5cm、高さ24.5cm

タディスもしくは
タ(ネト)カルウのミイラ

第3中間期
長さ148cm、幅33cm、高さ24.5cm



男性のミイラ

第3中間期
長さ160cm、幅38cm、高さ26cm

古代エジプト展
BOVEN LAND DE DISCOVERIES

All images © Rijksmuseum van Oudheden (Leiden, the Netherlands)

みどころ②

圧巻の立体展示！ 10数点の棺が一挙集合

今回、ミイラ棺の研究で世界的に知られるライデン国立古代博物館所蔵の貴重なミイラ棺の10数点の借用が実現しました。さらに本展では棺を横に寝かせた状態ではなく、棺を特別に立てた状態で立体的に展示する予定です。近年新装となったライデンでの常設展示をイメージし、本展では一挙に棺が並ぶ幻想的かつ圧巻の空間を演出し、当時の人びとの死生観へと観客を誘います。



アメンヘテプの棺

第3中間期
長さ185cm、幅50cm、高さ61cm



ホルの外棺

後期王朝時代
長さ202cm、幅70cm、高さ70cm



コンスウヘテプの内棺(部分)

第3中間期
長さ185cm、幅55cm、高さ32.5cm



パネシの外棺

第3中間期
長さ200cm、幅54cm、高さ38cm

これらの棺は死者のミイラを物的かつ呪術的に保護するものとして製作され墓に納められました。当時のエジプトでは貴重だった木材やパピルスや亜麻布を漆喰などで重ね合わせたカルトナージュなどを用い、入れ子にした複数の棺もありました。死後も来世での生活が続くと考えた古代エジプト人は、棺に多くの神々や死者の安寧を願う呪文を記したのです。これまでの展覧会とは異なり多くの棺を一挙に展示することで装飾や神々の姿、呪文の変化などから人びとと来世の関わりが移り変わっていくさまを紹介することが可能になります。また、最新のプロジェクト紹介ではその彩色技術や製作法、文字の書体などを通じ、棺の研究が近年大きく進展している様子も明らかになります。

ライデン国立古代博物館
古代エジプト展
ROOF LAND OF DISCOVERIES

All images © Rijksmuseum van Oudheden (Leiden, the Netherlands)

みどころ③

ヨーロッパ5大エジプト・コレクションのひとつ、ライデン 国立古代博物館から約250点が来日！

オランダ最古の大学都市ライデンの中心部に
あるライデン国立古代博物館は、オランダ王国の
国初代国王ウィレム1世によって1818年に設立
された、200年以上の歴史を誇る博物館です。
17世紀前半にライデン大学が所蔵していた
遺物を基盤としたエジプト・コレクションは現在



約2万5千点にのぼり、ヨーロッパの5大コレクションのひとつとされています。また、同館は今日にいたるまで60年以上にわたり、エジプトでの発掘調査を行なっていることでも良く知られています。1960年代にアスワンハイダムが建設された際、オランダはユネスコとともに周辺地域の考古学調査の支援を行いました。その活動を通してエジプト政府との良好な関係が生まれ、遺物の一部を持ち帰ることが許されたほか、ダムの底に沈む運命にあったタフェー神殿はオランダに贈られ現在ライデン国立古代博物館の一階ロビーに移築されています。以後、博物館はカイロの北西に位置するアブーロアシュ村付近などで発掘調査を行い、また1970年代からはカイロの南に位置するサッカラでの発掘調査を現在にいたるまで実施し、ツタンカーメン王の側近であったマヤの墓の調査など、世界をリードする研究も多数進められています。



一階ロビーに移築されたタフェー神殿



同館のエジプト・コレクション

ライデン国立古代博物館
古代エジプト展
ROYAL LAND OF DISCOVERIES

All images © Rijksmuseum van Oudheden (Leiden, the Netherlands)

展覧会構成

第1章

「エジプトを探検する」

18世紀の末にナポレオンがエジプトへ遠征し同行した調査団が著名なエジプト誌を出版したことでエジプトに対する関心は飛躍的に高まりました。本章ではヨーロッパの旅行者や調査団による遺跡のスケッチや写真とあわせ初期のエジプト探検を紹介するとともに、現在ライデン国立古代博物館が行っている発掘調査の様子を、出土品や映像などを用いて展示します。



エジプト学者の
イッポリト・ロゼリーニの出版物
「エジプトとヌビアの記念物」に
掲載された手彩色のリトグラフ
敵を討つラメセス2世
1832年
縦54cm、横75cm



パウティのピラミディオン

新王国時代
高さ47cm、幅47cm、奥行47cm



ホルミンの像

新王国時代
高さ125cm、幅53cm、奥行68cm



クウの石碑

中王国時代
高さ38cm、幅50cm、厚さ6cm



フィの石碑(部分)

新王国時代
高さ147cm、幅89cm、厚さ11cm



パディコンスの『死者の書』

新王国時代
縦24.5cm、横61.2cm

第2章

「エジプトを発見する」

3000年にわたった古代エジプト文明には少なくとも30の王朝が存在したことが知られており、それらは大きく9つの時代に区分することができます。本章では文明の前後もあわせた計11の時代につき、代表的なスタイルの石碑やさまざまな遺物を通して当時の世界観や技術の発展などを探るとともに、エジプトがどのように発見・認識されたのかを紹介します。

展覧会構成

第3章

「エジプトを解読する」

古代エジプト人が「来世の家」と考えた墓からは多くの副葬品が出土しています。豪華なミイラ棺、来世の安寧を願う『死者の書』に記された象形文字、呪術的な意味を込めて作られた宝飾品や身代わりの人形「シャブティ」などを通じ、エジプトの古代文明を読み解きます。

ネヘムスウのカルトナージュ棺

第3中間期

長さ150cm、幅40cm、高さ16.5cm



ホルウジャのファイアンス製
シャブティ

後期王朝時代

高さ27.5 cm、幅7.2 cm



護符とビーズの首飾り

新王国時代
長さ36cm



ネスナクトの『死者の書』(部分)

グレコ・ローマン時代
縦30cm、横45cm



金彩のミイラマスク

グレコ・ローマン時代
長さ48.5cm、幅28cm、厚さ14cm



男性のミイラ

第3中間期
長さ160 cm、幅38cm、高さ26cm



ホルネジトエフの
内臓を納めた木箱

グレコ・ローマン時代
長さ28cm、幅28cm、高さ66cm



おそらく5個の卵を持つヘビのミイラ

長さ19.7cm、幅9.6cm、高さ6cm

第4章

「エジプトをスキャンする」

最新の科学技術で明らかになった古代エジプトの新たな側面を紹介します。本展のためにスキャンをした人のミイラ3体と動物のミイラ1体の研究成果を世界初公開するとともに、ミイラ制作に使用されたカノポス壺の分析など、ライデン国立古代博物館が進める各種の国際的なプロジェクトを通じて古代エジプト研究の最先端を展示します。

開催概要

会 期： 2020 年 9 月 19 日(土)～12 月 6 日(日)

会 場： 愛知県美術館(名古屋市東区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター10 階)

開館時間： 午前10 時～午後6 時 金曜日は午後8 時まで(入館は閉館30 分前まで)

主 催： 愛知県美術館、中日新聞社、東海テレビ放送、東海ラジオ放送、
ライデン国立古代博物館

*本展は以下の会場を巡回します。※2020年7月3日現在の予定です。

静岡展：	2020年12月19日(土)～2021年3月31日(水)	静岡市美術館
東京展：	2021年4月16日(金)～6月27日(日)	Bunkamura ザ・ミュージアム
仙台展：	2021年7月9日(金)～9月5日(日)	仙台市博物館
山口展：	2021年9月中旬～11月上旬	山口県立美術館
兵庫展：	2021年11月下旬～2022年2月下旬	兵庫県立美術館

◇ 問 い 合 わ せ ◇

中日新聞社文化事業部 小久保 陽広

TEL: 052-221-0729/FAX:052-221-0739

〒460-8511 名古屋市中区三の丸1-6-1

